

## 令和元年度 中学生の「税についての作文」

柏税務署管内納税貯蓄組合連合会 会長賞

### 税金のありがたみ

柏市立柏第三中学校 第三学年 水落 希美

私は以前テレビのある番組で、毎日危険な通学路を通り、命懸けで学校へ通う生徒達の姿を見た。その生徒達は深い川を通り、急な崖を越え、毎日何時間もかけて通学しているのだ。そんな光景を見て、私は同じ学生として申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。それと同時に、どの国の子ども達も安全に学校に通えて十分な勉強ができるようになってほしいと強く思いました。

私の学校では、毎日何時間もかけて通学している人はまずいない。遠くてもせいぜい三十分ほどだろう。私が毎日安全に学校に通って勉強できるのは税金があるからだ。私が小学四年生の時、当時五パーセントだった消費税が八パーセントになった。今まで百五円で買っていた商品が百八円になってしまう。その頃まだ税のことについて何も知らない私は、「なぜ国のためにこんなにお金を払わなくてはならないのだろう」と非常に困惑したことを覚えている。そして、中学生になった私は税について調べた。今まで国民が納めてきた税金は国民のために使われているということを知った。道路や信号機も全て税金でつくられている。これらがなくなったらと思うだけでもぞっとした。

私が一番税金のありがたみを感じたのは教育費です。私が住む千葉県では税金のうち二十一・七パーセントが教育のために使われている。それを最も象徴するのが学校で使っている教科書だろう。そこには「この教科書は税金によつて無償で支給されています」と書かれている。時に雑に扱つたり今まで当たり前のように使つてきたものが、実は「一生懸命働いた人達が納めた税金で買ってくれたもの」だと思つと、なんてありがたいのだろうと思えました。税金を納めてくれている家族や多くの人達に感謝しなくてはいけない。私はそれに応えるためにも、一生懸命勉強しようと思えました。

そしてもう一つ知つたことは、国の税金のうち〇・五パーセントが経済協力費に使われていることです。自分の国のためだけでなく、開発途上国の経済援助のためにも税金は使われている。それを知つて私は少し安心しました。私は、貧しくて学校に通えない子ども達の話聞く度に心が痛みます。しかし、中学生の私にできることは限られています。そこで私達が納めている税金が、少しでも他の国の人達を救うことに繋がっていると知り、とても嬉しいし誇りに思っています。

私が住んでいる日本は、子どもがいない家庭でも当たり前のように税金を納め、そのおかげで私は学校に通えています。そう思うと、なんて恵まれた国なのだろうと思えます。私は将来、できることなら貧しく学校に通えないような子ども達を救いたい。そのためにも今、私は勉強をしたくてもできない人達の分まで一生懸命勉強しようと思えます。